



ちいさな絵本館だより

2013年7月発行

第30号

ちいさな絵本館だより、リニューアルです。

絵本館だよりも、30号になりました。今まで、絵本館だよりとおすすめコーナーとは、別のテーマで絵本を紹介してきましたが、今月よりおすすめコーナーの絵本を数冊ご紹介したいと思います。今まで同様、ご愛読いただければ嬉しいです。さて、今月のテーマは<空・星>を取り上げた作品のご紹介です。

『うさこちゃん ひこうきにのる』ディック・ブルーナ：作 福音館書店

おなじみのうさこちゃんのシリーズの1冊です。パイロットのおじさんに飛行機に乗せてもらい、海や森へ大冒険です。先日の講演会でもお話されていましたが、うさこちゃんの絵は赤ちゃんの目には認識しやすい色使いです。しかし、お話を理解するには、すこし時間がかかります。ゆっくり聞かず、ページをめくりたがれば、それに合わせてあげてください。そのうちに成長した姿を見てくれるはずです。赤ちゃん相手にお話を全部読もうとしても、赤ちゃんも、読んでいる皆さんも楽しめなくなるような気がします。

『雲をみようよ』トミー・デ・パオラ：作 光村教育図書

色々な種類の雲の名前や形、その雲が出来たら、どんなお天気になるか等、科学絵本のようでありながら、トミー・デ・パオラのコミカルな絵が、難しく感じさせません。雲ってこんなに種類が多いのを恥ずかしながら、この絵本でしついた私です(-_-;)。

『よぞらをみあげて』ジョナサン・ビーン：作 ほるぷ出版

疲れなくなった私。家族の寝息は気持ちよさそうに聞こえてくる。一人になってしまふと、ますます眠れない。遠い昔、私もそんな時期がありました。どんどん寂しくなるのです。私の家はマンションだったので、家を抜け出して、屋上にはいけません。この作品の彼女は、2階へ上がり、ベランダで心地よい夜風に吹かれると、すぐにすやすや。誰にも気づかれないようにベランダに上がったつもりの彼女に、お母さんはちゃんと、気がついているのですよ。私の母は、枕を抱えた私に、母の布団に入るように促してくれたものです。ちょっぴり懐かしくなりました。

『星どろぼう』アンドレア・ディノト：文 アーノルド・ローベル：絵 ほるぷ出版

どろぼうはどうしても、空に浮かぶ星が欲しくなり、空まで届くはしごで登って行きました。1つの星を袋に入れると、空全体にうかぶ星をとってしまい、家にしまいこみました。さて、次の夜になると、空一面の星が消えています。村人たちはどろぼうの仕業に違いないと泥棒を捕まえる計画を立てるのでした。さて、村人たちは無事に星を取り戻し、空に浮かべることができるのかは、読んでのお楽しみ！

<その他の空、星の絵本>

『たなばた』君島久子：文 福音館書店 『星座をみつけよう』H・A・レイ：作 福音館書店 etc...